

‘新平太夫’の黒星病は1回で防除できる

1 はじめに

本県のウメ産地では‘紅サシ’が黒星病にかかりやすいことから、黒星病対策で4回の防除を実施しています。一方、‘新平太夫’は黒星病にかかりにくい品種であり、防除回数を削減できると考えられますが、何回に減らせるのか、いつ散布するのがよいのか不明でした。

‘新平太夫’では、5月上旬のクレソキシムメチル剤(商品名:ストロビードライフロアブル)2,000倍1回散布により、果実の黒星病を十分に抑制できることが判明しました。



写真 果実に発生した黒星病

2 防除方法と黒星病発生

クレソキシムメチル剤2,000倍を4月中旬または5月上旬に1回散布すると、果実での黒星病に対して十分な効果が認められました。散布時期の比較では、5月上旬散布の方がより効果が高い結果でした(図1)。

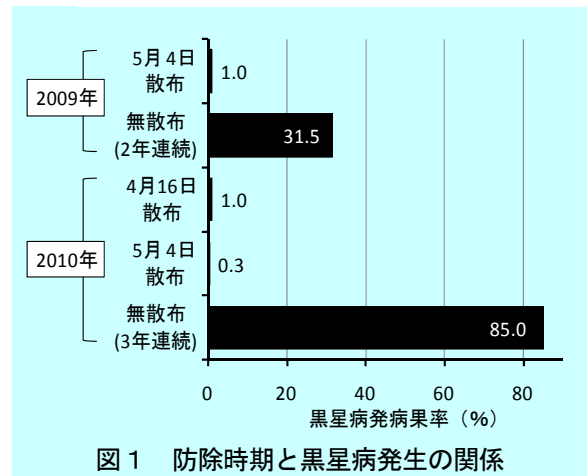


図1 防除時期と黒星病発生の関係

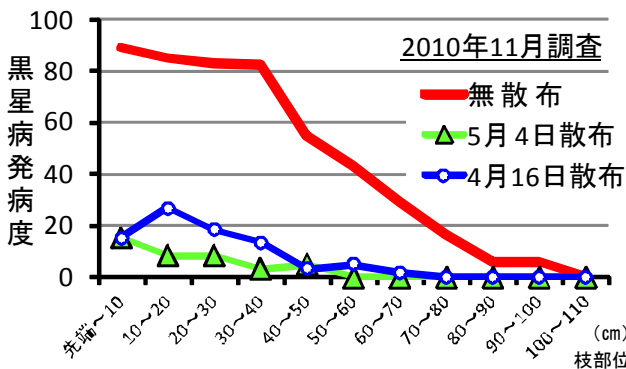
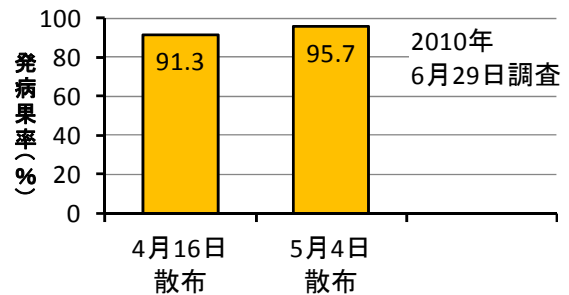


図2 发育枝上の黒星病病斑の形成

また、发育枝上に発生した黒星病病斑を調査したところ、散布の有無によって発病度に大きな違いがみられ、枝上の病斑形成を防ぐ高い効果が認められました。散布時期の比較では、こちらも5月上旬散布の方がより効果が高い結果でした(図2)。

3 すず斑病防除は別に必要

クレソキシムメチル剤は、すず斑病にも効果のある薬剤ですが、4月中旬または5月上旬の1回防除で果実のすず斑病を防ぐことはできません(図3)。すず斑病対策は別途必要です。



4 技術の効果およびコスト

‘新平太夫’の黒星病に対しては、5月上旬の1回防除で十分な防除効果が得られます。黒星病防除4回に要する薬剤費は10a当たり6,362円*ですが、1回散布では1,940円*に減らすことができます。‘紅サシ’混植園ではメリットを生かしく、‘新平太夫’に品種を統一した圃場においてコスト低減や省力化が可能になります。(※平成23年度JA三方五湖予約価格による試算)

(園試 ウメG 中川)